

子馬のゆいすけ & おおちゃん の
安全に、たのしく釣つりー！
あんぜん

1

「ライフジャケットってなに?」

ゆうすけ 「おやっさん、今度、家族みんなで釣りに行くんだ」

おやっさん 「ほっほっ、」に釣りに行くんだい?」

ゆうすけ 「えっと、フィッシングセンターって所だよ」

おやっさん 「そりゃいい。ゆうすけにも釣れるだろう」

ゆうすけ 「でしょ。スッゲー楽しみ」

おやっさん 「ゆうすけは釣りが好きかい?」

ゆうすけ 「うん、自分で釣りをするのは初めてだけど好き!

つりぎおもしろかったもんね」

おやっさん 「そうかそうか。ゆうすけも一人前になった証拠だな」

着ていくものも用意したか?」

ゆうすけ 「うん。長そでシャツ、ぼうし、長ぐつもあるよ」

おやっさん 「ライフジャケットは?」

ゆうすけ 「へ? ライブチケット?」

おやっさん 「ちがう! ライフジャケット!」

ゆうすけ 「なに、それ?」

おやっさん 「水に落ちても、浮いていられるベストだ」

ゆうすけ 「なんだ。だったら平気平気。ぼくはおおきおおきな」

おやっさん 「ゆうすけは、いつも服を着ておよいでんのか?」

ゆうすけ 「え？ すいえいパンツだけに決まってるじゃん」
おやっさん 「じゃ、ゆうすけはパンツいっちょつで釣りするの？」
ゆうすけ 「そんなワケないだろ！ 服を着てるよ」
おやっさん 「ふん、ゆうすけは水に落ちたらおぼれちゃうな」
ゆうすけ 「なんでだよ！」
おやっさん 「だって、ぬれた服はすごく重いんだぞ」
ゆうすけ 「そっか！ ぬれた服がくっついて、動けなくなるかも」
おやっさん 「だろ？ だからライフジャケットが必要なのさ」
ゆうすけ 「子どもサイズもあるのかなあ？」
おやっさん 「ある。自分用のライフジャケットを買ってもらいなさ」
ゆうすけ 「でもさあ、ライフジャケットって高いんでしょ？」
おやっさん 「1000円だぞ」
ゆうすけ 「えーッ、つりざおより安いじゃんー」
おやっさん 「そつだよ。それにな、転んだ時も安全だ」
ゆうすけ 「へ。でもさ、かっこわるくない？」
おやっさん 「アクセルテクターって知ってるか？」
ゆうすけ 「ボウケンジャーのよろい？」
おやっさん 「そつそつ。あれとにってるんだ」
ゆうすけ 「かっこいいじゃんー！」
おやっさん 「それにホイッスルもついてるぞ」
ゆうすけ 「ピーッ、って吹くホイッスル？」

おやっさん「そつだ。もしも池や川に落ちた時には吹くんだ」

ゆづすけ「そっかー。大声を出しても、そのうち声がかれちゃっもんね」

おやっさん「ゆづすけ、かしこい！ よくわかったな」

ゆづすけ「まあね。でも、おやっさんはさすがにくわしいね」

おやっさん「安全じゃなきゃ、釣りは楽しめないからな」

ゆづすけ「よし。あしたデパートで買ってもらおう」

おやっさん「デパートじゃなくて、釣具屋さんにあるぞ」

ゆづすけ「ラジャー！ お母さんと釣具屋さんにごーだ。アタック！」

おやっさん「あはは、すっかりボウケンジャーになっとなるな」

「ライフジャケットはいいよっていいの？」

ゆうすけ 「ライフジャケット買ってもらった！ かついい？」

おやっさん 「うん。イケてる、イケてる」

ゆうすけ 「でもさ、なんかヘンなひもがついてるんだよ。なんだ？」

おやっさん 「またひもだよ。これをつないでおかないと、

落ちた時にぬげちゃうからな」

ゆうすけ 「なるほど〜」

おやっさん 「ボート用のジャケットは、またひもがついてないけどね」

ゆうすけ 「なんでボート用はまたひもがついてないんだろ？」

おやっさん 「ボートなら、高いところから落ちるわけじゃないからな」

ゆうすけ 「なるほど〜。ボート釣りとおか釣りはちがうんだね」

おやっさん 「お手本てほんにき着きてみせるから、手伝てつたっておくれ」

ゆうすけ 「よし、またひもをしつかり、ビシッとね」

おやっさん 「コラ、ゆうすけ、しめすぎちゃダメだ……」

ゆうすけ 「なんで？」

おやっさん 「だから、その……」

ゆうすけ 「いいから、いいから。シッカリ、キッチリしめちゃうよ」

おやっさん 「アタタ、痛いたい！ タマタマがつぶれちゃうって……」

ゆうすけ 「アワフワ！ しめすぎちゃダメって、ニーユーにーゆー事ことかあ」

おやっさん 「ああ、ヒドイ目めにあった……。……」

まえのフラスナーと、よこのベルトはしっかりしめてな」

おやっさん「大の字に浮くよつにするのがイイんだ」

ゆづすけ「服の中の空気があ。じゃあ、ぬがない方がいいね」

おやっさん「服の中にたまった空気があ」

ゆづすけ「なんで？」

おやっさん「服はむりしてめいじつじなこ」

ゆづすけ「うん。そつすねは浮くべつて、プールのじゆんじゆんでならった」

おやっさん「まず、からだの力をぬこつて、手足をひるげな。」

あわててジタバタしない

ゆづすけ「..」

おやっさん「そつ。たすけてもらえるまで、体力をのこつておへ」

ゆづすけ「でも、..」

おやっさん「自分でおよぐことおつめ」

助けてもらうことを考えなまやいかん

ゆづすけ「そつか。むりにおよびつておつめと、つかれちゃうもたね」

おやっさん「ライフジャケットを着ていねば浮くからおよびるじやん」

おやっさん「だって、ゆづすけは水に落ちたことないだろ」

ゆづすけ「なんで？ ちゃんとライフジャケットもあるよ」

おやっさん「そーかなー？」

ゆづすけ「よあ〜し。これです安全に釣りが楽しめるよ」

3

「水に落ちたら..」

ゆづすけ 「でもさ、ズボンはぬいだ方がいいんじゃないの？」

おやっさん 「ぬれてからだにはりついた服やズボンは、

かんたんにはぬげないぞ」

ゆづすけ 「そっか。ぬぐうとする方が、かえってつかねちゃうんだ」

おやっさん 「それに岸辺にはい上がる時、ケガしちゃうからな」

ゆづすけ 「くっはっ」

おやっさん 「長ぐつはぬいだ方がいい。

うんぐつならはいてた方がいい」

ゆづすけ 「水が入ると、長ぐつは重いもんね。おやっさん、すごいな」

おやっさん 「お師匠様と呼びなさい」

ゆづすけ 「はい、お師匠様！」

「どんなところ、どんな時があぶない?」

ゆうすけ 「こんどこそ、なにがあってもダイジョーブだ」

おやっさん 「ぜんぜん、ダイジョーブじゃないな」

ゆうすけ 「なんでダメだし?」

おやっさん 「ゆうすけは水に落ちたいのか?」

ゆうすけ 「へ?」

おやっさん 「安全に楽しむっていうのは、

あぶない目にあわないうってことだぞ」

ゆうすけ 「あー、そっかあ。安全にって事は、

ライフジャケットのお世話になっちゃダメなんだ」

おやっさん 「あぶないところや、あぶない時を知っておくのも大切だぞ」

ゆうすけ 「水に落ちたり流されたりしなきゃ、おぼれないもね」

おやっさん 「そーゆーことだ。ゆうすけは、どこがあぶないと思っつ?」

ゆうすけ 「テトラの上はあぶないよね」

おやっさん 「みどり色になってる石やコンクリートも、

苔や藻が付いていて、すべるからあぶないぞ」

ゆうすけ 「でもさ、フィッシングセンターなら安全でしょ?」

おやっさん 「あまいぞ、ゆうすけ。水辺はどこでも同じだ」

ゆうすけ 「えー! だって……」

おやっさん「いきなり落ちたら、パニックだろ?」

ゆうすけ「そっか。突然水に落ちたらビックリしちゃうもんね」

おやっさん「あわてずに助けてくれるのを待つんだぞ」

ゆうすけ「あせってジタバタしちゃダメだね」

おやっさん「そっだ。落ち着いて助けてもらう事」

ゆうすけ「うん、わかった」

おやっさん「お返事は『うん』じゃなくて『はい!』だ」

ゆうすけ「あ、はい! わかりました!」

おやっさん「ゆうすけ、あいさつやお返事はちゃんとしなきゃダメだ」

ゆうすけ「はい……」

おやっさん「元気がない! そんな事じゃワシの弟子にはなれんぞ」

ゆうすけ「はい! って、ボクはおやっさんの弟子?」

おやっさん「釣り、上手になりたいんだろ?」

ゆうすけ「なりたいです」

おやっさん「ふっふっふ、ワシは釣りの先生の資格を持ってある」

ゆうすけ「えッ! マジで?」

おやっさん「公認釣りインストラクターといってな、

勉強して、テストに合格したホンモノだぞ」

ゆうすけ「す、スゴイ! お師匠様!」

おやっさん「はっはっは! ゆうすけも大人になったらガンバレ」

ゆうすけ「はいッ! がんばります」

おやっさん「よし。よし。宿題はちゃんとやったのか？」

ゆづすけ「でエー！ わ……忘れてた……」

おやっさん「釣りよりも、学校の勉強の方が大事だぞ！」

ゆづすけ「わかりました……」

おやっさん「よく学び、よく遊んで、好き嫌いなく飯を食べる！

お父さん、お母さん、先生の言う事は素直に聞け！」

ゆづすけ「（小声で）あちゃ〜。カミナリオヤジに弟子入りしちゃったよ。

おまけに『ウルトラ5つの誓い』みたいな事言ってるし……」

おやっさん「ゆづすけ、聞こえてるぞ！」

ゆづすけ「うひゃ〜、うめんなわーい……」

カミナリオヤジの上に、地獄耳だったよ。」